

在宅療養の限界点を高める 看護小規模多機能型居宅介護(看多機)の 機能強化・設置促進について

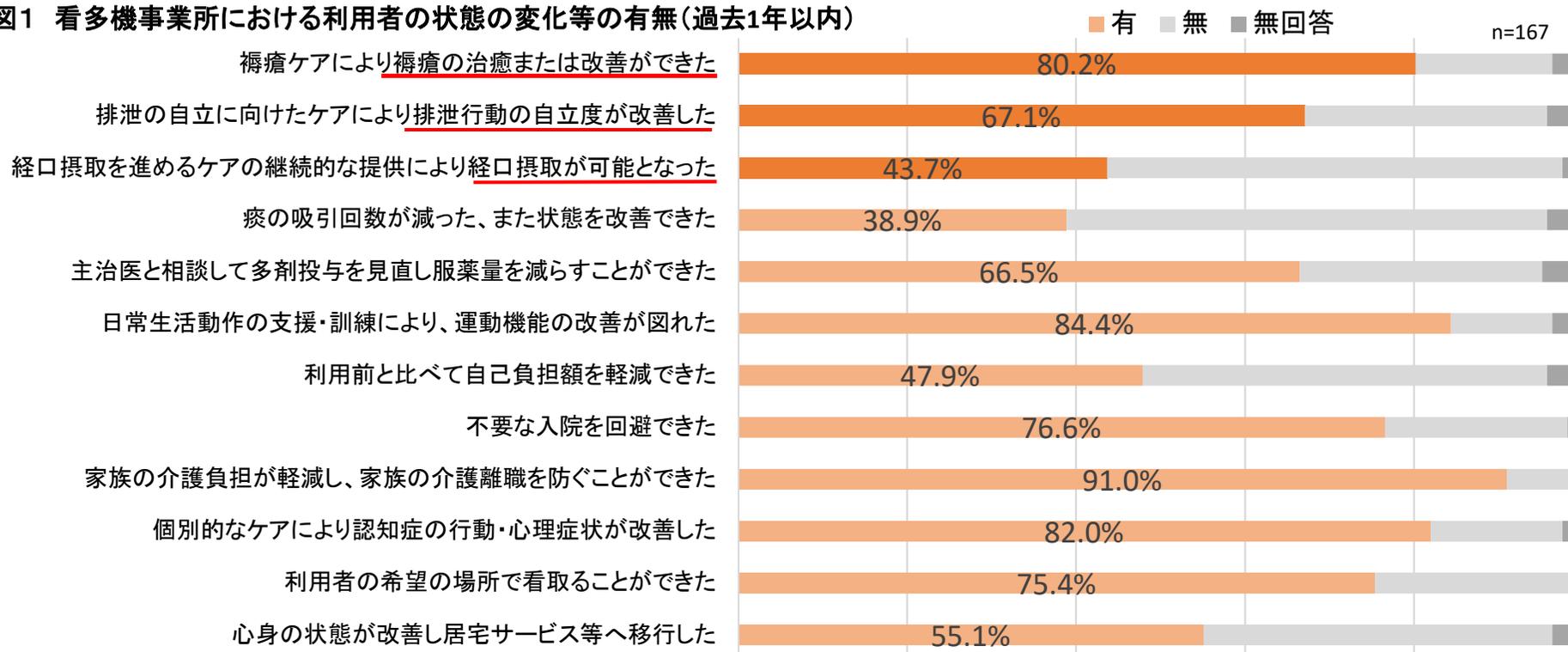
岡島さおり

(公益社団法人 日本看護協会 常任理事)

看多機における自立支援・重度化予防の取り組みへの評価

- 看多機の利用者は要介護3以上の中重度者が6割を占め、小多機に比べ医療ニーズ対応や看取り対応が多い。
- 看多機では、利用者の状態に合わせ、看護師によるアセスメントに基づき、「通い」「泊まり」「訪問」のサービスを柔軟に組み合わせてケアを提供することが可能。
- 多職種協働による自立支援・重度化予防に資するケアを提供することで、中重度の利用者の状態が改善することが示されている(図1)。
- 介護施設等における褥瘡マネジメントや排せつ自立支援、経口摂取支援等への評価と同様に、看多機における自立支援や重度化防止に資するケアを評価するよう要望する。

図1 看多機事業所における利用者の状態の変化等の有無(過去1年以内)



出典 平成30年度老人保健健康増進等事業「看護小規模多機能型居宅介護および療養通所介護の特性に関する調査研究事業報告書」三菱UFJリサーチ&コンサルティング

看多機の機能強化・設置促進に向けて

- 医療ニーズを有する中重度の要介護者の生活を地域で支えるために、看多機の整備・設置促進の必要性についてはこれまでの分科会でも指摘されてきたところ
- 利用者にとってより使いやすく、多くの地域で看多機の設置が進むよう、一部見直しが必要

● 看多機と訪問入浴介護の併用

- 退院直後やターミナル期等で状態不安定な利用者においては、看多機の通いによる入浴が難しく、自宅での入浴介助が必要な場合がある。
- 現状では看多機利用者が併用可能な介護保険サービスに【訪問入浴介護】が含まれていないため、看多機と併用可能とするよう要望する。

● 看多機の空床利用による緊急ショートステイの単価引き上げ

- 看多機では空床を活用して、医療ニーズのある在宅療養者を緊急ショートステイ（短期利用居宅介護費）として受け入れることが可能だが、現在、緊急ショートステイの単価は、小多機とほぼ同額の568単位～836単位となっている。
- 看多機では看護職員を配置し、医療ニーズのある中重度者への対応が可能であることを鑑み、緊急ショートステイの評価の引き上げを要望する。

看多機の機能強化・設置促進に向けて

● サテライトを有する看多機における体制強化加算の算定要件見直し

- 看多機は中重度の要介護者やターミナル期の利用者が多いため、利用者の負担軽減のためには、できるだけ移動距離が短い身近な場所に事業所があることが望ましい。また、利用者が少ないエリアでも看多機が利用できるようにするためにはサテライト事業所の設置促進が有効である。
- しかし、サテライト型看多機の開設当初は、本体事業所から利用者の一部がサテライトに移動することで、本体利用者数が一時期減少する。これに伴い、本体事業所でこれまで算定していた看護体制強化加算・訪問体制強化加算等が算定できなくなる場合がある。看多機およびサテライト型看多機の設置促進のため、看多機の体制加算（看護体制強化加算、訪問体制強化加算）については、本体事業所とサテライト事業所の実績の合算で算定可能とするよう要望する。